



広報 KOGA NO.37

こ が 古河



目次

- 2 国民文化祭
- 4 子どもたちの安全(Part1)
- 6 チャレンジフェスティバル
- 7 遠きにおいて
- 8 まくらが人物列伝

10

OCTOBER

2008



第23回国民文化祭・いばらき2008

古河の文学散歩道フェスティバル

～文学をあんどんの燈し火にのせて～

国内最大の文化イベント「国民文化祭」が、11月1日(土)～9日(日)に茨城県で開催されます。その国民文化祭では、県内各地域の特性を生かしながら、共通する文化的な特徴を持つ12のエリアで、行政区域等にしばられず、それぞれのテーマをもとにイベントを展開する「広域文化交流事業」を開催します。そして古河市では、「文学散歩道フェスティバル」と題し、歴史文化資源を活用したさまざまなイベントを実施します。ぜひ、この秋、古河市の文化のいぶきを体験してください。

【問】第23回国民文化祭古河市実行委員会事務局(古河市教育委員会文化課内)
☎22-5111 Eメール

市内で行われるイベントが盛りだくさん!

オープニング

○「1ページの絵本表彰式・朗読会、基調講演」

日時 11月2日(日) 午前10時～(表彰式と入賞作品の朗読会「朗読：声優あおきさやか氏」)
午前11時～講演「コドモノクニと文学」
鷹見本雄氏

場所 スペースU古河

文学あんどん祭

日時 11月1日(土)～3日(月・祝)、8日(土)～9日(日)
点灯時間：午後5時～7時

場所 古河歴史博物館・古河文学館周辺、市内各所
内容 市内の子どもたちをはじめ、地域の人たちが思いを込めて書き綴った文芸作品で包まれたあんどんで街中を飾り、情緒あふれる街並みを幻想的な景観に演出

国民文化祭記念事業

○フルートとピアノコンサート

日時 11月2日(日) 午後3時～

場所 古河文学館サロン

※詳細は、お知らせページP8をご覧ください。

○童謡コンサートと物産展

日時 11月3日(月・祝)
午前10時～午後3時

場所 スペースU古河、市役所古河庁舎中庭

内容 コンサート：応募団体の発表および「マリンバとピアノコンサート」、「胡弓とお琴のコンサート」 物産展：逸品会、食遊三和、JA むつみ、森ファームサービス、文学歴史関係書籍販売等

○二胡と煎茶の会

日時 11月3日(月・祝)
午後4時～7時

場所 古河歴史博物館お濠特設ステージおよび鷹見泉石記念館

内容 中国文化に由来する煎茶のお点前と豊かな表現力をもった二胡との饗宴
二胡演奏 ①午後5時30分～ ②午後6時30分～

○連歌会

日時 11月3日(月・祝)
午後1時～5時

場所 古河文学館

※詳細は、お知らせページP8をご覧ください。

○文学講演会・演劇

日時 11月8日(土)
午後2時～4時(文学講演会)、午後5時～8時(演劇)

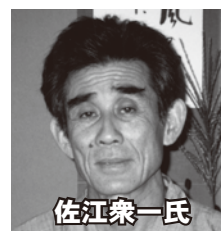
場所 古河市公会堂

【文学講演会】古河ゆかりの作家、永井路子氏と佐江衆一氏による文学対談「歴史小説あれこれ」(入場料無料)

【演劇】万葉時代の古河を舞台として描かれた詩劇「草の民」を市内の劇団集団が上演(入場料500円)



永井路子氏



佐江衆一氏

○和太鼓フェスティバル・火縄銃演武

日時 11月9日(日)

【火縄銃】①正午～、②午後2時30分～

【和太鼓】午後2時～

場所 古河歴史博物館お濠周辺

文学の道・歴史の道ガイドツアー

日時 11月1日(土)～9日(日) 会期中随時

場所 市内

内容 古河公方館跡や鷹見泉石記念館、武家屋敷跡など、古の景観を今に伝える城下町の町並みや文学作品に描かれた古河の街並みを散策するガイドツアーを実施(参加費無料。ただし要事前申し込み)

企画展

○古河歴史博物館、古河文学館、古河街角美術館、篆刻美術館、三和資料館にて、さまざまな企画展を開催します。詳細はP14(ミュージアムレター)をご覧ください。

地域で子どもたちを守りましょう!



(小堤小学校スクールサポーターの立哨活動)

近年、子どもたちを狙った凶悪事件が続発し、地域ぐるみで守ろうという動きが広がっています。そこで、今月と来月の2回にわたり、子どもたちを見守る地域活動の様子をお知らせします。

今回は、市内の小学校・中学校と協力して「安心・安全なまちづくり」に取り組んでいる団体の活動状況を紹介합니다。

【問】古河庁舎 学校教育課 ☎22-5111

子どもたちを見守る地域づくりにご協力を!

市内の小学校(23校)には8,081人の児童が、中学校(9校)には4,268人の生徒が元気に徒歩や自転車で通学しています。この児童生徒たちが、事故や犯罪の被害者にならない“安心で安全な学校生活”が送れるように、学校と地域が一体となって、各地域でさまざまな活動を行っています。

児童が登下校するときのルートは、“より安全な通学路”を学校と保護者などで協議して決め、徒歩による集団登下校をしています。

しかし、いつ、どこで起こるか分からない交通事故や、不審者出没等による危険箇所が通学途中に数多くあるのが現状です。この事故や災難から子どもたちを守る対策が緊急課題となっています。近県において通学途中に小学生が誘拐される犯罪や登校中に交通事故に巻き込まれたなど、痛ましく悲

惨な被害が大きく報道されました。

子どもたちがこのような犯罪や事故に遭わないように、学校側では「学校(通学路)安全マップの作成」や「防犯訓練・交通教室」などを実施して、児童たちに危険回避能力を身につける教育をしています。また、通学路の安全点検を教職員や保護者、関係機関などが協力して行い、危険箇所の把握と周知徹底、さらには情報の共有をすすめ、日ごろから子どもたちに危険箇所を認識させることによって、事故の未然防止と安全確保を図ることが必要になっています。



▲学校関係者と道路・交通管理機関との合同による安全点検を行っています



▲危険箇所には、“見守り呼びかけ看板”を設置しています

「子どもを一人にさせない」地域で見守り

小学校低学年児童は集団登下校時には高学年の児童により見守られていますが、下校時間や帰宅方向の違いにより、どうしても「一人になること」があります。このような状況にどう対応するか学校や家庭において話し合うことがとても重要になります。

市においても「防犯ブザーの配布」「こどもを守る110番の家」

「全小中学校防犯カメラの設置」などの対応をしています。特に、地域で子どもが被害者となる事件を未然に防止(小学生・中学生が変質者に遭遇したときや事故・病気等での緊急避難所)するため、「子どもを守る110番の家」のステッカー(市内統一のデザイン)を市PTA連合会の協力のもと作製しました。このステッカーは、協力してくれる家庭など、約3,200軒に各小学校を通して配布しました。

地域の皆さんには、子どもたちの登下校時間に合わせた散歩、買い物、庭での手入れ時間など……家や外で見守りをしてもらうことが、“子どもたちを守る”ことに

つながりますので、今後とも温かい目で子どもたちを見守ってもらえるようご協力をお願いします。



▲カンガルー親子のマークが目印です

スクールサポーター

小堤小学校ではスクールサポーター(平成18年1月発足・会員数35人)の協力により、児童と一緒に登下校や危険箇所などでの立哨活動により「地域で子どもを守る安心で安全」な生活を見守るボランティア活動を続けています。



【市内の子どもたちを見守っている団体をお知らせします】

小学校名	登下校時ボランティア団体名	小学校名	登下校時ボランティア団体名
古河一小	古河一小安全協力員	駒羽根小	駒住安全安心ステーション
古河二小	安心・安全な学校づくりボランティア	西牛谷小	西牛谷小子守会
古河三小	地域のおじさんおばさん運動	水海小	おさんぼ隊
古河四小	地域のおじさんおばさん運動	下辺見小	わかたけ隊
古河五小	自治会、子ども会	中央小	関戸シルバーパトロール隊・新町セーフティパトロールチーム、中央子どもを見守り隊
古河六小	自治会防犯パトロール隊		
古河七小	地域安全見守り隊、セイフティスタッフ	諸川小	竹とんぼ
釈迦小	釈迦小学校区防犯ボランティア	大和田小	大和田子どもを守る家
下大野小	下大野子ども見守りたい	駒込小	駒小見守り隊
上辺見小	かつしか子ども見守り隊	八俣小	八俣を護り隊、お散歩パトロール隊
小堤小	スクールサポーター	名崎小	おさんぼパトロール隊
上大野小	スクールサポーター	仁連小	じゅうにひとえお散歩パトロール

チャレンジフェスティバルを開催します!

～ひろげよう みんなの輪 こころの輪～

初めての試みとなる地域福祉の充実を図ることを目的とした、チャレンジフェスティバルを開催します。

障害のある人の舞台発表や作品展、手作り体験、スポーツレクリエーション、福祉体験、乗馬体験コーナーや模擬店コーナーなど、誰もが楽しめるプログラムが盛りだくさんです。ぜひ、遊びに来てください!



【問】 障害福祉課 (総和福祉センター「健康の駅」内) ☎ 92-4919

「障害のある人・ない人」も「子ども」も
「お年寄りの人」も一緒に楽しみましょう!

日時 11月1日(土) 午前9時～午後3時

場所 広域中央運動公園総合体育館・サッカー広場

◆記念式典・発表展示(総合体育館アリーナ)

- ・ 記念式典(開会式・表彰式)
- ・ 講演会
 - 第1部「ハンディキャップを持った人たちの作り出すアートの素晴らしさ」
NPO法人自然生クラブ施設長 やなせたかし 柳瀬敬氏
 - 第2部「創作 田楽舞い」
- ・ 発表会 障害がある人たちなどによる舞台発表
- ・ 作品展 小学生・中学生および障害のある人たちの作品の展示
- ・ 福祉機器の展示

◆ふれあい広場(総合体育館外庭)

- ・ 模擬店コーナー(綿あめ、ポップコーン、駄菓子など)
- ・ 自主製品販売コーナー(自家製パン、クッキーなど)
- ・ 手作り体験(手づくりおにぎり、クラフトなど)
- ・ 福祉体験コーナー(車いす体験、手話体験など)

◆チャレンジ広場(サッカー広場)

- ・ スポーツコーナー(フライングディスクなど)
- ・ 乗馬体験コーナー(ポニー乗馬体験)

シャトルバスの時刻表

○古河地区方面【小型バス・27人乗り】

停車場所	行 き			帰 り	
古河庁舎	7:30	9:30	11:00	14:20	16:20
	↓	↓	↓	↑	↑
古河駅東口 (みずほ銀行前)	7:50	9:50	11:20	14:00	16:00
	↓	↓	↓	↑	↑
ユーセンター 総和駐車場 (上辺見駐在所前)	8:10	10:10	11:40	13:40	15:40
	↓	↓	↓	↑	↑
会 場	8:20	10:20	11:50	13:30	15:30

○三和地区方面【大型バス・40人乗り】

停車場所	行 き			帰 り	
三和庁舎	8:00	9:30	11:00	14:00	16:00
	↓	↓	↓	↑	↑
総和福祉センター 「健康の駅」	8:15	9:45	11:15	13:45	15:45
	↓	↓	↓	↑	↑
会 場	8:30	10:00	11:30	13:30	15:30



▶緑と花に包まれた大野城市。市域内には九州自動車道が通っていて、交通の便に恵まれた地域です



「遠きにありて」のテーマの通り、私は今、関東地方から遠く離れた福岡県大野城市という人口10万人の町に家族3人で暮らしています。きっかけは、今から約10年前に九州地方出身の主人と知り合い結婚。当初は栃木県の宇都宮市に住んでいましたが、仕事の関係で熊本県の本渡市に転居することになったのが大きな理由です。当時は、まだ9カ月の子どもがいましたので、住み慣れた土地を離れ、遠い見知らぬ土地へ行くことにはかなりの勇気と覚悟があったように思います。そうして、私たちは生活の場を天草地方の本渡市へと移し、その後も熊本県荒尾市、熊本市内、山口県下関市と引越しを重ね、現在の大野城市での生活が今年で4年目になろうとしています。

改めて振り返ってみると、この10年はまるでジェットコースターに乗っていたような感覚で、本当に足早に過ぎて行きました。数年おきの新しい土地での生活や人との出逢いと別れ、そして子育ての日々は言葉では表せないくらい大変なものでした。しかし、それらの経験を通して、今強く感じるのは、これまでの私を一生懸命育ててくれた「ふるさと」の両親の深い愛情と、地元“古河市”に住んでいた時に、お世話になった全ての人たちへの感謝の気持ちです。また、いつもくじけそうになる私を励ましてくれた友人たちの存在の大きさに気付くことができたのは、私にとって大きな収穫でもありました。

関東平野の中心に位置する古河市は、自然が多く残っていて、視界全体に広がる広い空や田園風景など、穏やかに時間が流れて、生活を送るにはとても良いところだと思います。

そんな“ふるさとの空気”を身近に感じながら、遠く離れた地で、これからも地域の人との縁を大切にしながら一日一日を過ごしていきたいと思っています。



▲福岡県大野城市在住
集路 万智子さん（旧姓森谷・前列中央）

まくらが人物列伝

第9回

没後150年 鷹見泉石

(1785~1858)

日本最初のオランダ国地図、洋学をめぐる多彩な交流関係、国宝のモデル、そして国重要文化財に指定された3,157点の文化財群…。

今月は、没後150年を迎えた鷹見泉石のおはなし。

開国を見届けた生涯

安政5(1858)年7月16日、いまから150年前の古河長谷町の隠居屋敷で、開国と通商、新時代の到来を見届けるかのように、もと古河藩家老のご隠居、鷹見泉石が、静かに息を引きとります。日本を世界市場に組み込む契機となった日米修好通商条約の締結は、前月19日のことでした。

鷹見泉石一天明5(1785)年6月29日、古河藩士の御使番であった父、忠徳の嫡男として誕生。古河第一小学校体育館の北側道路には、彼の生誕地を示す記念碑が建てられています。よく使われる「泉石」は隠居後のもので、諱は忠常



▲渡辺華山筆「鷹見泉石画像(模本)」
(原品は国宝・東京国立博物館蔵)

といい、字に伯直、号として楓所、可琴軒、泰西堂、通称は十郎左衛門でした。

12歳で江戸藩邸に移った泉石は、弘化3(1846)年、62歳で古河に隠居するまで、いずれも幕府老中を勤めた殿さま土井利厚・利位の側近として仕え、大坂・京都・江戸を転勤しながら、その情報処理能力に磨きをかけていきます。ときに、黒船をはじめとする異国の船影が迫り来る時代のことでした。

没後150年 鷹見泉石の伝える文化財

こうした環境下、時代の変化に機敏な眼を持つ泉石であればこそ、蘭学・洋学の世界に足を踏み入れたことはきわめて自然のなりゆきといってよいのかもしれません。蘭学の泰斗の情報交換の場としてよく知られている大槻玄沢主催の「オランダ正月」に、泉石は20代の若さで出席していますが、このわずか一例からでも、彼の力量を

押し量ることは難しくないでしょう。

こんにちは、古河歴史博物館では、国の重要文化財に指定された3,157点の鷹見泉石関係資料を公開していますが、没後150年を経てなお、彼の文化財群は新たな発見を与えてくれています。その舶来書籍やさまざまな文物、蘭学者たちと取り交わされた書簡や日記等々、それらはいずれも、蘭学史の第一級資料として研究者たちの垂涎の的となっているのでした。

日蘭交流250周年記念誌—鷹見泉石の『新訳和蘭国全図』

そのような泉石の研究成果の頂点は、日本最初のオランダ地図と評価される『新訳和蘭国全図』でありましょう。これは泉石が、オランダとの交流250年目を迎えた嘉永3(1850)年、その記念出版物として刊行したもので、ナポレオンの台頭をはじめヨーロッパ状況の変化を明快に解説する一文を添えた、いわば読む地図というべきものです。

泉石はその冒頭に述べています。250年も交流しながら、オランダの地理・歴史について知る日本人はほとんどない、と。

250周年記念の地図を鏡として150年後のわたくしたちに、泉石は何をか語りつつけていることでしょうか。(古河歴史博物館学芸員 永用俊彦)



▲鷹見泉石作「新訳和蘭国全図」(国重文)

全国大会・関東大会で活躍！

全国家庭婦人剣道大会

落合弥生さん

7月19日に東京都日本武道館で行われた第25回全国家庭婦人剣道大会に落合弥生さん(総和剣道クラブ)が茨城県代表の副将として出場。見事、準優勝を飾りました。



落合弥生さん(下大野)

ジャパンパラリンピック 水泳競技大会 染谷祥子さん

7月20日に大阪府立門真スポーツセンターで行われた2008ジャパンパラリンピック水泳競技大会に染谷祥子さん(茨城DoSwimmingclub)が「女子50m自由形」、「女子100mバタフライ」で見事、優勝を飾りました。



染谷祥子さん(東山田)

全国商業高等学校協会競技大会 阿部幸広くん・高久昌英くん

7月20日に東京都昭和女子大学グリーンホールで行われた第24回全国高等学校簿記コンクールに阿部幸広くん(古河一高・2年)

と高久昌英くん(古河一高・3年)が「個人部門」でそれぞれ優良賞を受賞しました。

また、8月2日に東京都立荒川商業高等学校で行われた第55回全国高等学校珠算競技大会に阿部幸広くんが「電卓部門個人総合」で見事、準優勝を飾りました。



阿部幸広くん(古河一高)



高久昌英くん(古河一高)

全国高等学校総合体育大会

小野澤遥さん

8月17日から20日にかけて埼玉県川口市青木町公園総合運動場プールで行われた全国高等学校総合体育大会水泳競技に小野澤遥さん(古河一高・2年)が「女子100mバタフライ」で4位、「女子200mバタフライ」で6位に入賞しました。



小野澤遥さん(古河一高)

全国中学校体育大会

若旅大貴くん・船橋里乃さん

8月21日から23日にかけて富山県西部体育センターで行われた第38回全国中学校剣道大会に若旅大貴くん(総和中学校・3年)と船橋里乃さん(総和中学校・3年)が「男子個人」で見事、優勝。 「女子個人」で船橋里乃さんが入賞しました。

若旅大貴くんが「男子個人」で見事、優勝。「女子個人」で船橋里乃さんが入賞しました。



若旅大貴くん(総和中学校)



船橋里乃さん(総和中学校)

関東少年軟式野球大会

並木宏季くん・塚田貴之くん

8月20日から21日にかけて群馬県前橋市敷島公園野球場で行われた第38回関東少年軟式野球大会に茨城県県西選抜チームの選手として並木宏季くん(三和中・2塁手)、塚田貴之くん(総和中・投手)が「見事、優勝を飾りました。」

縄文時代を体験！ 「勾玉づくり」

8月24日、夏休み子ども講座「^{まがたま}勾玉づくり」が燦SUN館(三和図書館資料館)で行われました。

勾玉とは、古代の人々が首にかけていたアクセサリーのことで、始まりは、狩猟した獣(熊・猪・狼)などの^{しが}歯に穴をあけ、首にかけてたものと言われています。これはその人の強さを表しており、またお守りや魔よけの意味合いもあったようです。この体験に参加した25人の小学生は、実際に石を削って勾玉をつくり、古代の人がとが何を考え、どれほど苦勞してつくっていたか感じていました。



▲一生懸命に紙やすりで磨いて“オリジナルの勾玉”を作っていました

総和中学校校舎完成式

総和中学校では昨年7月よりはじまった工事が完成し、8月26日に新校舎内の多目的ホールで完成式が行われました。当日は多数の関係者をお迎えし、来賓あいさつや学校からのお礼のことば、アトラクションでは在校生のオーケストラ部と吹奏楽部が見事な演奏を披露し式典は盛り上がりました。

新校舎は計画の段階から「自然との共有」をコンセプトに生徒や教職員、PTAなどの意見を反映する参加型のワークショップ形式を採用し、普通教室と廊下はガラスの間仕切りにするなどオープンで明るい校舎になっています。



▲アトラクションでは、吹奏楽部の演奏などで盛り上がりました

節目のお祝いに “敬老祝金を贈呈”

多年にわたり社会につくしてきた高齢者の長寿を祝福して、市では、敬老の日を前にして77歳、88歳、100歳以上の人に敬老祝金を贈りました。今年度、市内で77歳になる人は1,128人、88歳になる人は392人、100歳以上の人は43人いらっしゃいます(8月1日現在)。

東本町一丁目の渡邊政市さんは今年で108歳。県内の男性では最高年齢です。渡邊さんの自宅を訪問した白戸市長は「これからも健康に気をつけて長生きしてください」と長寿を祝福しました。



▲フラダンスが大好きという県内男性最高齢者の渡邊さん(右)を市長が訪問

冒険しながら親子の触れ合い

9月6日、古河総合公園で「わくわく体験！冒険ラリー！」が開催され、25組・77人の親子が参加しました。園内に設けられた5カ所のチェックポイントで渡される「冒険の書」の指示に従い、のこぎりで工作をしたり、古河公方の歴史を勉強したりと一つ一つ課題をクリアしていく様子は、まさに

冒険ラリー。古河総合公園の新しい楽しみ方を再発見していました。また、各ポイントでは、中・高校生ボランティア「ふうせん」の皆さんが、親子の触れ合いをお手伝い。半日という時間でしたが、参加した皆さんは、公園の自然と歴史を体感しながら、家族のコミュニケーションを深めていました。



▲御所沼で舟も体験しました

総和地区・古河地区 バレーボール大会

8月31日、広域中央運動公園総合体育館等にて第32回古河市行政自治会親善バレーボール総和地区大会、古河体育館等にて第45回市民総ぐるみバレーボール古河地区大会が開催されました。

総和地区では計53チーム、古河地区では計40チームが参加し、各会場では、白熱した試合が繰り広げられました。

また、ジャンピンググレイブやスパイクなどの名プレーが飛び出すと、多くの観客が歓声をあげ、会場を盛り上げていました。

皆さんもこれからの秋の訪れとともに、スポーツの秋を楽しんでみてはいかがでしょうか？



▲ジャンピンググレイブの名プレー！
(広域中央運動公園総合体育館)



▲スパイクとブロック、競り勝つのはどっちでしょう？ (古河体育館)

日々新たなり

古河市長 白戸伸久

～ 長寿社会 ～

敬老の日に合わせて、総務省がまとめた推計値によると、全国で65歳以上の高齢者は2,819万人で総人口の22.1%を占め、過去最高だったそうです。

では、皆さん、古河市で65歳以上の方がどのくらいおられるのか、ご存知でしょうか。答えは、約28,400人で19.5%を占めています。

全国と比較し本市の高齢化率は低いものの、大まかに言えば、5人に1人が高齢者という状況に変わりはありません。

さて、先月は、敬老の日になんだ各種行事が市内あちこちで行われました。私もいくつか出席させて頂きましたが、いずれも賑やかでエネルギーに富んだ高齢者の笑顔に接することができ、大いに元気を頂きました。

本市では、敬老祝賀の一環として毎年9月に敬老祝金を支給していますが、合併前旧3市町でそれぞれ内容が違ったものを新市で統一し、平成18年度から新制度で実施しています。

その内容は、77歳の喜寿と88歳の米寿を迎えた方々に各10,000円、100歳以上の方々には全員に各30,000円をお祝い金として贈呈するものです。

今年77歳を迎えられた方は1,128人、88歳が392人、そして100歳以上の方は43人でした。金額は十分ではないと思いますが、お祝い金には長寿を心から祝う市民全員の気持ちが込められております。

ところで、敬老の日は、多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日と法律で定められています。

かつて60歳以上の方を老人、近年では65歳以上の方を高齢者とするなど、長寿化に伴いその定義も変わっていますが、一番大切なことは、健康寿命をできるだけ伸ばしていくことにあります。

このためには、安心できる社会保障制度のもとで、地域づくりやボランティア活動、技術の継承、就業や趣味を通じた生きがい対策など、高齢者の意思を大事にした社会参加の機会を、より多く用意していくことが必要かと思えます。

敬老の日は、まさしくそのような社会づくりを願う日でもあると思います。



My Hobby

“遊びだ！ 笑顔だ！ チャレランだ！” 綾部保知さん（上辺見）

あなたは靴をどれくらい遠くに飛ばすことができますか？ 空き缶を何個つむことができますか？ ジャンケンで何回連続で勝てますか？ チャレランはさまざまな楽しい遊びの記録に挑戦するものです。今回は、子どもも大人も誰でも楽しめる「チャレンジランキング(略してチャレラン)」を子どもたちにボライティアで教えている綾部さんにお話を伺いました。

もっとみんなで遊ぼう！

「遊び集団をもたなくなってきた最近の子どもたち。物が豊かになり、緑や空き地が少なくなり、塾やテレビゲームなどで忙しい子どもたち。これでいいのだろうか？」と今から約20年前に思い、「将来を担う子どもたちを“遊びの中でたくましく成長させよう”と、近所の子どもたち(10人程度)を集め、身近なものを使って楽しく遊んだことがきっかけです。」と笑顔で話す綾部さん。

誰もがチャンピオンに！

「チャレランは遊びの大会を開催しています。いわゆる“チャレラン大会”です。遊びに挑戦した子ど

▶「割り箸ダーツ」割り箸をペットボトルの上から落として何本入るかな？



▲いつも、身近なものを使って遊べる新種目を考えています

もには、どんな記録であっても認定書を渡します。」それは、「その子ども一人ひとりの存在自体に価値を認めることにもつながります。」そして、「大会の各種目チャンピオンを“遊びのチャンピオン”として表彰します。遊びの数だけチャンピオンがいるはずですよ。さまざまな切り口によって、誰もがチャンピオンになれる可能性を持っています。」と常に新しいチャレランの種目を考えているという綾部さんは、今ではなんと約200種目の遊び(1分間ジャンケン・紙ヒコーキ・さいころ1だし・割り箸ダーツ・くつ飛ばし・空き缶つみ・洗面器おてたまなど)を持っています。

メッセージ

「“チャレランで遊んで楽しかった”で終わらすことなく、お互い知らない子同士が年齢や性別や地域を越えて集団で遊ぶ中に“自発性や思いやりが育てばいいな……”と考えていますので、ぜひ、子ども会など(子どもが集まる場所)からのご連絡をお待ちしています。」【問い合わせは、☎ 31-2290 まで】

最後に将来の夢を尋ねたところ、「1,000人の子どもが集まって、同じ遊びを同時にやることです。」と力強く話し、「子どもと遊んでいるところを想像するだけで自然と笑顔になってしまう」綾部さんでした。

暑かった夏も終わり秋の香りが漂う季節になりました。この季節、ネーブルパーク正面入り口に近くと甘い香りに包まれて秋の訪れを感じることができます。皆さんも感じたことのある香りだと思いますが、ご存知の通り、「キンモクセイ(金木犀)」の香りです。

このキンモクセイはモクセイ科モクセイ属の常緑小高木で、同じ種類には白い花のギンモクセイ(銀木犀)や、ヒイラギとギンモクセイの雑種といわれるヒイラギモクセイ(柊木犀)、ほかにも淡い黄色い花をつけるウスギモクセイ(淡黄木犀)などがあります。いずれもキンモクセイに比べると香りは弱いようです。旧総和町では町



▲キンモクセイの香りが芳香剤として人気商品となった時期もありました

の木として多くのモクセイが植えられました。ネーブルパークも例外ではなく、正面入り口周辺の生垣や研修センター側入り口、キスゲ園脇、第一駐車場脇などにろうそく仕立てにしたキンモクセイを見ることができます。

江戸時代に伝わったこのキンモクセイ、日本では庭木など観賞用に植えられることが多いのですが、原産国の中国では丹桂、またその花を桂花と呼び、桂花を白ワインに漬けた桂花陳酒や烏龍茶・緑茶・紅茶などに混ぜた桂花茶が作られています。私はまだ味わったことがありませんが、きっと独特の甘い香りが漂うことでしょう。

また、このキンモクセイにはオスとメス(雌雄異株)があり中国では実がなりますが、日本ではほとんどこの実を見ることはできません。これは中国から日本に入ってきた木の大半が観賞用に適した香りの強いオスの木であったことや、挿し木で増やすことができることによるのではないかと考えられています。

秋の花の代表格ともいえるキンモクセイ。その花言葉は謙虚・真実・初恋です。花の香りは強く存在感を示していますが、内に秘めた意外と控えめな花言葉です。

【問】ネーブルパーク ☎92-7300

文化財の窓

郷土の俳人

梅田徳雨

「音楽も 律にかなふや 終の道」
徳雨が知人の死に際して吟じた追悼句です。かの知人がどのような人物であったかはわかりませんが、おそらく“音楽”に何らかの関わりを持った人物だったのでしょうか。江戸時代のことですから、音楽といっても尺八の名人とか、太鼓の名人とか……。徳雨もいわば文化人ですから、そんな関係から知り合っていたのではないかと思います。

徳雨は元禄15(1702)年ころに古河市久能に生まれ、医者を生業として天明元(1781)年に没した江戸時代中期の人物です。生業のかたわら、俳諧に親しみ、『千鳥墳』(宝暦10〈1760〉年刊)や『松島游記』(宝暦13〈1763〉年刊)などの句集を編集しています。「徳雨」という名はもちろん俳号(ペンネーム)なのですが、本名は残念ながらわかりません。徳雨という俳号は、俳諧の師匠初世祇徳から

「徳」の字を与えられたといわれています。祇徳は江戸浅草蔵前の豪商で、多くの俳諧の門人を抱えていました。

地元に残る徳雨に関する資料はほとんどありません。ただ、彼の墓石には「医弟 筆弟 誹弟 一百余輩敬白」と刻まれ、医者・俳人のほか寺子屋の師もしていたようです。その弟子たちが百人以上もいたというところに、徳雨の人となりとうかがい知ることができます。



▲梅田徳雨墓石

いよいよ秋真っ盛り。秋といえば芸術・文化の秋です。11月には“第23回国民文化祭・いばらき2008”も開催され、古河市のテーマは「文学散歩道フェスティバル」です。三和資料館でも市域の江戸時代から昭和時代までの俳諧(俳句)をテーマに企画展(11月1日～12月21日)を開催します。小春日和の一日、文学を満喫しに古河市散策と洒落込んでみてはいかがでしょうか。

(三和資料館)

秋の博物館は特別展・企画展が目白押し！

11月1日～9日、第23回国民文化祭・いばらき2008が開催されます。古河市のテーマは「古河の文学散歩道フェスティバル」。これにともない、古河歴史博物館をはじめ各館では文学にちなんだ展覧会が開かれます。秋の爽やかな空気の中、万葉の時代からつづく、歴史ある古河の文学世界に遊んでみてはいかがでしょうか？

■古河歴史博物館 特別展「古河と文学」10月25日(土)～11月27日(木)

万葉の世から歌に詠まれた古河（許我）。堆積した歴史的風土の中で花開いていった古河の文学について紹介。

■古河文学館 特別展「絵雑誌『コドモノクニ』の父 鷹見久太郎展」

10月25日(土)～11月24日(月・祝)

子ども向け絵雑誌の金字塔『コドモノクニ』と『コドモノテンチ』の世界、また両誌の生みの親、鷹見久太郎を紹介。

■篆刻美術館 企画展「石井雙石展」11月24日(月・祝)まで

明治から昭和を代表する篆刻家である石井雙石(1873～1971)の作品をたどります。第2会場は古河街角美術館。

■古河街角美術館 「1ページの絵本ーよみがえる絵本黄金時代ー」作品展 11月1日(土)～9日(日)

多くの童謡・童話を生んだ『コドモノクニ』と『コドモノテンチ』。そこに掲載された童画につける詩や物語を全国公募しました。入賞・入選作品を一同に紹介。

■古河市三和資料館 企画展「古河周辺の俳句」11月1日(土)～12月21日(日)

三和地区の代表的な俳人の活動と作品を紹介。



▲古河歴史博物館特別展「古河と文学」より 万葉歌碑

図書館おすすめの図書

◇一般書

・切羽へ

井上 ^{あれの} 荒野 著



夫と穏やかで幸福な日々を送るセイの前に、ひとりの男が現れる。夫を深く愛しているが、惹かれてゆくセイ。宿命の出会いに揺れるふたりはやがて…。廃墟の多く残る静かな島を舞台に描く、美しい切なさに満ちた恋愛小説。

【第139回直木賞受賞】

出版社…新潮社 分類…Fイ

◇児童書

・パパにあいたい

ビーゲン セン 作 オームラ トモコ 絵



お父さんが大好きなターくん。お友だちに「高いところのぼれば、遠くにいるパパにあえる」と聞いて、高い塔を作ることになりました。いす、フライパン、はしご、バス、パトカー……。街中のものをどんどん積み上げていくと……。

出版社…アリス館 分類…パ

(古河図書館)

健康情報局

最近もの忘れが多くなった…… 心当たりありませんか？

認知症は身近な問題!?

日本人の平均寿命は著しく伸び、本格的な高齢社会になっています。認知症高齢者も年々増加しており、2025年には85歳以上のお年寄りの3人～4人に1人が認知症と言われています。

認知症高齢者は、急激な環境の変化に混乱してしまうため、多くの人は地域で暮らしており、すべての地域住民にとって自分や家族にも起こりうる身近な問題になっています。

認知症とはどんな病気？

脳に起きた何らかの障害によって、いったん獲得された知的機能(記憶・計算する、人・場所等を認識するなど)が低下し日常生活を送ることが困難になる病気です。

例えば、「人の名前が思い出せない」のは単なるもの忘れですが、認知症の場合は家族と自分の関係そのものがわからなくなるなど、周囲の状況を把握したり判断したりする力が衰えていくのが特徴です。

初期サインにはこんなものが……

- ・身なりを気にしなくなった
- ・今まで好きだったことに興味、関心がなくなった
- ・以前より怒りっぽくなった
- ・外出がおっくうになった

認知症を予防するためには……

【生活習慣病を放置しない】

高血圧・脂質異常症・糖尿病は脳

卒中や脳梗塞を招くため、認知症の直接的な原因となります。

【適度な運動を心掛ける】

血流を良好にし、動脈硬化を防いだり脳のさまざまな部分を刺激するなど、予防に大きな効果があります。

【バランスのよい食生活を】

基本は栄養をバランス良くとること。近年の研究では特に野菜・果物・魚をよく食べる人は認知症になりにくいことがわかってきました。

【活動的な生活を】

趣味や友達付き合い等を楽しんでいる人は、脳への刺激が多いため認知症予防に良いとされています。

【その他】

簡単な計算や音読、利き手と逆手で名前を書く、なども予防に有効と言われています。

早めに受診することが大切！

認知症は、早期に発見して治療や適切なケアを行えば、症状を軽減したり悪化を防いだりできる病気です。認知症が疑われる場合の受診は神経内科・精神科などですが、気になつたらまずかかりつけ医に相談することをお勧めします。

認知症は誰にとっても身近な病気です。誤解や偏見をなくし、適切な関わり方を学び、認知症高齢者を家庭・地域・社会で支えていきましょう。

(健康推進課)

表紙写真

三和産業祭・さんさんまつりが、10月25日(土)に三和健康ふれあいスポーツセンター前広場・駐車場で開催されます。

当日は、地域産業の振興を図るため、商工会やJA(農協)をはじめ、三和地区の各種団体などが多数出店するほか、幼稚園児・小学生の和太鼓演奏や郷土芸能保存会による三和祇園ばやし(茨城県指定無形民俗文化財)、神輿、山車等が参加して祭りを一層盛り上げます。

ぜひ、家族そろって出かけてみてはいかがでしょうか。(写真は今年の三和産業祭・さんさんまつりの様子)

寄付

ホテル山水(高橋功代表取締役)より、社会福祉のために車いす5台の寄付。

古河市電設業協会より、AED(自動体外式除細動器)を総和南中学校に1台寄付。

人口と世帯

(9月1日現在 住民基本台帳から)	
総人口	145,763人(-78)
男	73,148人
女	72,615人
世帯数	53,384世帯(+11)
	()内は前月比

くずし豆腐入りのこ汁

<メタボリックシンドローム予防>



エネルギー=56kcal
たんぱく質=5.3g
脂肪=2.8g
塩分=0.4g

材料(4人分)

木綿豆腐1丁、しめじ100g、なめこ100g、A(片栗粉大さじ2・水大さじ3)、万能ねぎ4本

作り方

- ①しめじは石づきをとってほぐす。万能ねぎは1cm幅の斜め切りにする。
- ②鍋にだしを煮立て、しめじ、なめこ、豆腐を手でくずしながら加えて、しょうゆ・塩で調味する。
- ③あくを取りながら2~3分煮て、Aの水溶性片栗粉でとろみをつける。器に盛り、最後に万能ねぎを散らす。

(食生活改善推進協議会)

アイドル登場

「サッカー大好き」

島村悠聖くん・泰成くん

(3歳11カ月・1歳2カ月 けやき平)



悠聖は、大のサッカーファン。ユニフォームを着てスタジアムやテレビで観戦したり、毎日サッカーボールを蹴って遊んでいます。

最近、泰成も“はいはい”で悠聖が蹴るボールを追って2人楽しそうに遊ぶようになり、毎日にぎやかです。1歳を過ぎて、少しずつ歩けるようになった泰成。いっぱい歩けるようになったらお外でサッカーしようね。

(父：亨さん・母：かな恵さん)

古河風土記

史蹟・古河歴史博物館独り案内

古河城―江戸時代、二人の幕府大老のほか多くの閣老を輩出したこの譜代の城は、およそ27万坪におよぶ規模をほころる広大なものでした。月並みな表現ですが、東京ドーム19個分にあたるといえば、その広さを実感いただけるかもしれません。

あの黄門さまの水戸城より大きな城であつたのですから、いささか驚かされます。

それにしても、そのような関東有数の大規模城郭がいったいどこに…… そうした問いにしばしば遭遇するのもやむを得ないことなのかもしれません。

というのも、大正末年にはじまる渡良瀬川改修工事によって、古河城のおよそ2/3、しかも、本丸・二丸・三丸という中心を構成する曲輪が失われたのですから。では、古河城の史蹟はすべて滅失してしまった? じつはそうでもありません。ならば、いずこに……

旧古河城の史蹟は、ここ古河歴史博物館にちゃんと保存されています。この場所、かつて、殿さまの留守を預かる城代が屋敷を構えていた古河城諏訪曲輪の跡、あるいは出城といえピンとくる向

きもあるかもしれません。

すなわち当館は、古河城の堀や土塁といった遺構、そして、隣接地に残されていた古河藩家老鷹見泉石の隠居屋敷をとりこんで開設されました。いわば古河歴史博物館の一角は、わたくしたちの共有遺産である古河城跡に層を重ねる複雑な歴史を呼び覚ましなが、保存することを目指した公園といつてもよいでしょう。



▲史蹟・古河歴史博物館

とここで古河歴史博物館の建設にあたり、古河の特徴を表われないという難しい課題を成し果せたのは、このまちの歴史と文化を熟知した吉田桂二という建築家の存在があつたからにほかなりません。

その優れた意匠は、開館2年後の平成4年に「日本建築学会賞作品賞」を、同年、秀逸な公共建築作品に贈られる「公共建築賞」を受賞しています。

関東の名城、古河城跡に建つ現代の名建築。古河歴史博物館なるこの作品も、いずれ市民の共有遺産として、收藏される文化財たちとともに次世代に引き継がれていくことでしょう。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦

平成20年10月1日発行

●発行所/〒306-1029 茨城県古河市下大野2248 古河役所 0280-3111
●編集/広報広聴課 ●ホームページ/ <http://www.city.ibaraki.kogae.jp/>